

新市中央中学校区	校番 67	福山市立綱引小学校
最終更新日	2025年（令和7年）4月1日	

I 福山市	ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 ビジョン 各中学校区・学校が資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
-------	--

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容 ・「オール新市」を掲げる中で、地域の良さを発信やボランティアの取組など、もっと地域を好きになる取組を進めてほしい。 ・HPなどでの出前授業の取組（キャリア教育の取組）は興味深く、今後も継続して児童生徒にたくさん学んでいただきたい。 ・学校に登校できない子供たちにも目を向け、そこへの取組をもっと発信した方がよい。（知らない人が多い）	児童生徒の現状 ・全国学力・学習状況調査をはじめとした学力調査を踏まえ、基礎的・基本的な内容の定着に重点を置く必要がある。 ・キャリア教育の実践を通じ、校区で育てたい資質・能力を意識しながら様々な活動に取り組むことができおり、4月当初から12月末で、肯定的評価をする児童生徒が増えている。	育成する力 資質・能力 めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	チャレンジ&チェンジする力、自己理解力、自己表現力 ・自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。 ・自分の将来の夢や目標を持つ児童生徒。 ・自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。 ・地元事業者や地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、出前授業、探究学習、職場体験学習、面接など、様々に取り組んでいく。
---------	---	--	--	--

III 自校	ミッション 地域から愛され、応援される学校づくりを行う。	学校教育目標 心豊かに 自ら学ぶ子どもの育成	現 状 <児童> ・「学ぶことが楽しい」児童は、81%。R6全国学力・学習状況調査（6年）では、全国比、国語+2.3、算数-4.6だった。主体的・対話的で深い学びに関する質問紙項目は概ね高い数値だったが、経年的に算数科の定着率が低い。 ・単元末テストにおける、得点率 40%未満の児童は 3%に減ったが学力調査における得点率 40%未満の児童が 20%いる。 ・平日放課後における 1 日当たりのゲームをする時間が 3 時間以上の児童が 37.8%だった。 ・コミュニティスクールとしての動きが活発になり、地域から学ぶ機会が増えた。「地域が好き」な児童は 92%だった。 ・友だち同士で「わくわく学習」を見合ったり、オンライン発表会を行ったりしたことで「わくわく学習」に対する肯定感が 82%となった。 <授業> ・学び合いを中心に研究を行い授業のスタイルができてきたが、学び合いによって生まれる学習効果について授業のなかで十分に見取ることができなかった。 ・教職員のニーズに合わせてミニ研究を行い授業に生かしたため、やりがいをもって仕事に取り組む肯定感が上がった。 ・カリキュラムの中に CS での学びを位置づけ取り組んだことで児童は地域に愛着と誇りを持っている。	育成する力 資質・能力 めざす子ども像 1・2年 3・4年 5・6年	チャレンジ&チェンジする力 苦手なことでも最後まであきらめずにチャレンジしている。 失敗を恐れずチャレンジし、失敗してもそれをもとに次どうすればよいか考えている。 リーダー性を身につけ、課題を解決するためにチャレンジし、改善しようとしている。	自己理解力 自分の好きなことやってみたいことをもち、自分のよさを理解している。 自分の好きなことやってみたいことをもち、自分のよさと課題を理解している。 自分のよさや課題を理解し、よさを伸ばし、課題を克服しようとしている。	自己表現力 自分の思いをもち、相手に伝えている。 自分の思いや考えを多様な表現方法で堂々と表現している。 自分の思いや考えを根拠を示しながら工夫して表現している。
				研究 テーマ 内容等	自分の考えをもち、学び合う授業づくり ～教材研究！こども理解！教材研究！こども理解！～ ○教科の本質を意識した教材研究を行う。（算数・理科・体育を中心に） ○学級経営を基盤とした授業を行う。（特別活動を生かして）		
				めざす授業の姿	① 児童とともに学習計画を立て、つける力を意識した授業。 ② あたたかい雰囲気の中で安心して自分を表現できる授業。 ③ 確かな学力をつける授業。		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立綱引小学校

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期・中期経営 目標の達成状況	力% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
5	こどもが 学びに向 かう力、学 び続ける 力、なりた い自分に 向かう力 を育成す る。	★	見 直 し	課題解決に向け て、自分なりの方 法で取り組み、粘 り強く学ぶことも を育成する。 〈チャレンジ&チ ェンジする力〉	①教科の面白さを 追究して授業づく りを行う。(研究部) ②安心して自己を 発揮し目標に向か って生活できる、学 級づくりを行う。 (生指部) ③「メディアコン ロールデイ」(校 区)を設け、生活 習慣を見直し、時 間の使い 方を判断する力を つける。(健安部)	①「学びが面白い」90%以 上(児童)授業づくりポ ート フォリオを活用して授業改 善を行った。100%(教職 員) 国語・算数・理科の単元テ ストにおいて、40%未満の 児童5%以下 ②「自分のよさは、まわりの 人から認められていると思 いますか。」85%以上(児童) ③「ゲーム(スマホゲーム) 3時間以上」20%以下 体力テスト県平均かつ全国 平均以上の項目が昨年度 (18分の3)以上(今年度)									
			新 規	夢や希望をもち、 自分のよさを伸 ばそうとするこ どもを育成する。 〈自己理解力〉	①「好き」や「やりたい」に 向かう「わくわく学習」を推 奨する。(研究部) ②個別に支援が必要な児童 に多様な学びの場や相談で きる場を設定する。(生指部)	①「わくわく学習で自分に あった学び方ができた。」8 0%以上(児童) ②「困りごとや不安がある 時、学校で相談できる。」 「先生がよさを認めてくれ る。」90%以上									
			★ 見 直 し	自分の考えとそ の理由を明らか にして、工夫して 発表すること もを育成する。 〈自己表現力〉	①学び合いの目的や方法を 明らかにし、豊かに自己表現 する授業づくりに取り組む。 (研究部) ②地域の人的・物的資源を 活用した教育活動を行い、相 手を意識した表現活動に取 り組む。(生指部)	①「自分の考えとその理 由を明らかにして、発表 を工夫している。」80% (児童) ②CSとのつながりを意 識した授業を設定した。 100%(教職員) 「児童が相手に伝わる発 表ができた」ととらえる 教職員85%									
5	教職員が元 気・笑顔で勤 務できる環 境を充実す る。		見 直 し	教職員が協働 して意欲をも って教育活動 を行う。	①教職員のニーズに合わせ た研究や少人数での部会を 生かした取り組みを行う。 (企画委) ②日常的に職員間でコミュ ニケーションを取り合う。 (企画委)	①「教科の面白さを実感し ている」90%以上(教職員) ②「授業づくりや分掌の仕 事などについて協働してく れる仲間がいる。」90%以 上(教職員)									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難しく、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。